

平成 30 年1月

麻生養護学校 校長室たより

麻生の風

校長 奥野 康子

新しい年を迎えました。麻生養護学校を今年もよろしく申し上げます。

二学期の終業式で、我が家にあった凧と羽子板を子どもたちにお見せしました。羽子板は、誰に買ってもらったものなのか覚えていないのですが、小さい頃の宝物でした。硬い種（昔はムクロジの種を使っていたようです。）のような玉に羽がついたものを、木の板でつくものですが、カンカンという小気味いい音が大好きでした。本校の終業式で少しだけ羽根つきを試してみたところ、その音に大喜びをしていた子どもがいたそうです。昔のお正月遊びとして紹介しました。

三学期になって「校長先生、あの羽子板かしてください。」という先生が、何人も来ました。お正月遊びの学習で使ってもらったようです。50年ぶりに子どもに触れてもらい、羽子板も嬉しかったことでしょう。

先日研修会で聞いたお話です。子どもたちにつけたい力についてです。それは、学び続ける力であり、他者と課題解決する力です。その力を使って社会に貢献し、誰もが幸せになる社会を作っていくことを目指すことだそうです。

ある企業の方が、初めて特別支援学校の生徒の実習を受けたところ、会社の雰囲気がとても良くなったそうです。仕事の進め方はゆっくりですが、教えられてことを丁寧の一つひとつじっくりと向かう姿勢が、周囲の社員が感心するほどで、職場が穏やかなムードになったそうです。今は、職場になくはならない存在ということでした。児童生徒と関わっていると同じ思いをしています。

三学期は、まとめの時期です。これまで学んできたことを、生きる力として役立つように、充実した学習となることを期待しています。